

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/3)

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	教授	氏名	ウ 萬 ジ ン テ 泰
学歴	昭和60年 2月 国立(韓国)慶北大学校社会科学大学心理学科 卒業 昭和60年11月 国立(韓国)慶北大学校教育大学院(修士課程)相談心理学専攻 中途退学 平成元年 3月 京都大学大学院教育学研究科(修士課程)教育方法学専攻 修了 平成 4年 3月 京都大学大学院教育学研究科(博士課程)教育方法学専攻 単位取得満期退学 平成 8年 3月 総合研究大学院大学文化科学研究科(博士後期課程)国際日本研究専攻 修了				
学位	平成元年 3月 教育学修士(京都大学) 平成 8年 3月 学術博士(総合研究大学院大学) 甲第164号				
専門分野	分析心理学、文化臨床心理学				
専門資格					
所属学会	平成 2年 9月 日本心理臨床学会 平成 3年 4月 日本箱庭療法学会 平成 9年 2月 韓国児童心理再活学会 平成16年 5月 韓国箱庭療法学会 平成18年 4月 日本心理学会				
受賞					
担当 授業科目	学 部 臨床コミュニケーション論、臨床心理学基礎演習、臨床心理学演習、臨床心理学研究法演習 ・、臨床心理学総合演習 ・、臨床心理学実践演習(夢分析1)、ユング心理学 大学院 臨床心理面接特論B、心理療法特演 -A・ -A、臨床心理学特演I-A・ -A、臨床心理学研究 法特演I-B、				
論文指導	論文指導担当[主査](卒論： 6名、修士論文： 1名) 論文審査担当[副査](卒論： 15名、修士論文： 5名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	ユング心理学	講義・演習・実習・実験	春・秋	約185名	
	授業の概要： 数ある性格理論の中でも日本で最も広く受け入れられている分析心理学の基本理 念と心理療法の実践に導入する際の実例を紹介する。特に、日本的価値観を大事にすることが 如何に分析心理学的かについても学ぶ。				
教育活動の振り返り 教育活動の成果： 授業をよりよくするためのアンケートを実施し、その結果についてもフィードバックし、 受講生の参加意識を高める工夫をした。なお、毎回の授業に対して受講生全員にアンケート を書いてもらい、その意見と質問に対しても必ず回答とフィードバックを行っている。その 結果、受講生の授業に対する理解、参加度、疑問については常に理解ができています。 今後の課題： 近年の深刻な問題は受講生の受講マナーである。単なる不注意ではなく、講義に参加する とはどういうことかについての基礎的マナーの欠如が目立つ。この問題にどのように対応し ていくかは今後の大学教育の大きな課題であると考え、さらに真剣に取り組むべき課題と考 える。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

<p>F D 活 動 ・ 教 育 実 績</p>	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績          本学FD委員会主催の講演会2回に参加          平成26年10月 2014年度 第1回 FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ~ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携~」(発題者:総合社会学部・准教授 手嶋英貴)          平成27年 3月 2014年度 第2回 FD研修会「授業と評価をつなぐ為に ~ルーブリック評価入門~」(講師:帝京大学 高等教育開発センター・教授 井上史子)</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等          特になし。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<p>1. 物語の分析心理学的分析          2. 箱庭療法の臨床的活用と分析          3. 古典芸能の心理学的分析</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要</p>	<p>1. 物語の分析心理学的分析に関しては、イメージ療法としての活用が大きく期待される人形劇場 (Figure Theater) 遊びの心理療法的開発と臨床場面への適用について研究集会を通して模索した。その成果の一部については論文としてまとめた。後述:(論文)          2. 箱庭療法の臨床的活用と分析についても、人形劇場との関連で比較検討を進めており、非言語療法という共通点を切り口に分析作業を進めた。          3. 古典芸能と心理療法については、本学の「臨床物語学研究センター」委員として古典芸能と心理療法との接点について広く研究活動に参加した。</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)          (論文)          1. 「イメージ療法の多様性とその可能性 人形劇場と箱庭療法の対比を中心に」, 単著、平成26年11月、韓国箱庭療法学会 箱庭療法研究第10巻第2号 pp.1-15(韓国語), pp.17-31(日本語)          2. 「心理療法としてのFigure Theater」, 単著、平成27年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第17号(pp.19-26)</p> <p>(学会報告、学会活動)          1. 韓国箱庭療法学会定期研修会コメンテータ、平成26年8月・平成27年1月、ソウル</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)          通訳:          1. 京都大学大学院教育学研究科主催 講演会「分析家訓練における文化的要因」 李符永(京都大学・講師)、平成26年6月、京都大学          その他:          1. 「神田さんの事例を読んで」, 単著、平成26年4月、神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室紀要第15号 (pp.106-108)</p> <p>(調査活動)          (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等)          (学内活動)          臨床心理学科長、大学運営会議委員、大学教学会議委員、自己点検・評価委員会委員、自己点検・大学院委員会委員、自己点検・評価 管理運営専門委員会委員、自己点検・評価 教育研究専門委員会委員、自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員、危機管理委員会委員、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員、広報委員会委員、人事委員会委員、入試委員会委員、海外学術研究助成委員会委員、臨床物語学研究センター委員</p>
<p>社会 に お け る 活 動 (平成 二 十 六 年 度 の)</p>	<p>(NPO法人等の団体への参画)          ・ 総合研究大学院大学 (国際日本文化研究センター)メンタルヘルス担当カウンセラー          「平19.4より」          (小中高との連携授業の講師)          平成26年 5月 京都文教高等学校ALP授業「臨床心理学科のカリキュラムと学習方法」, 於:同校</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(著書) 1. 「人間モーゼと一神教、心理学と宗教」、共著、平成22年3月、ナツメ社、編著者：山中康裕、心理学対決！フロイト対ユング (pp.160-163) 2. 「倫理問題における文化的要因」、共著、平成24年4月、日本評論社、編著者：伊原千晶、『心理臨床の法と倫理』(pp.183-194)
	(論文)
	(学会報告、学会活動) 1. 韓国箱庭療法学会研修会(事例検討会)コメンテータ、平成21年8月、ソウル 2. 韓国箱庭療法学会研修会(事例検討会)コメンテータ、平成22年8月・平成23年1月、ソウル 3. 韓国箱庭療法学会(事例検討会)講師・コメンテータ、平成23年8月・平成24年1月、ソウル 4. 韓国箱庭療法学会研修会コメンテータ、平成24年8月・平成25年1月、ソウル 5. 韓国箱庭療法学会研修会(事例検討会)講師、平成25年8月・平成26年1月、ソウル
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 学術講演： 1. 「韓国における箱庭療法の現状と展望」、単独、平成26年3月、神戸市六甲道勤労市民センター主催「箱庭療法に関する国際セミナー」、六甲心理療法研究所 学術交流に関する活動： 平成13年度より大学院臨床心理学研究科教員が参加する「日韓学術交流会」を企画・運営し、現在7回の交流会が行われた。この交流会は参加教員の国内での研究成果を海外の専門家に発信する貴重な機会となっている。同時に韓国の専門家との情報交換・交流の場ともなっている。(平成26年3月現在)
	(調査活動) 平成23年度 Figure Theater療法の心理学的活用の試みに関する調査(対象：韓国の青年)、於：韓国ソウル東部児童相談所 平成25年 8月 Figure Theater療法適用調査(対象：思春期児童)および検討会、於：韓国ソウル市立児童心理治療センター
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成21年度 上述の科学研究補助金による研究の研究分担者として、海外の心理臨床家とのインタビュー調査を通して得られた資料の統計学的・心理学的分析を行った。 平成22年度 上述の科学研究補助金による研究の研究分担者として、調査結果の処理・分析を行った。
(学内活動) 平成15年 4月 研究員派遣調整委員会委員「平22.3まで」 平成20年 4月 臨床心理学部研究報告編集委員会委員「平22.3まで」 図書館・情報委員会委員「平23.3まで」 平成24年 4月 学生部長「平26.3まで」 平成24年10月 学生相談室長「平26.3まで」 学生相談室運営委員会委員「平26.3まで」	
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度における活動の	(NPO法人等の団体への参画) 平成19年 4月 総合研究大学院大学(国際日本文化研究センター)メンタルヘルス担当カウンセラー「現在に至る」  (その他) 平成24年 5月 京都文教教養講座 臨床心理学科テーマ：「音楽と物語」第1回講師、「オペラ作品にみる親子関係」、於：京都文教大学